

熊野高校女子ソフトボール部 総体レポート

夏の陽射しが強くなってきた六月三日。春の大会から一ヶ月余りで、和歌山県高等学校総合体育大会が開催されました。春では、準決勝で県立笠田高等学校と対戦し、一対〇と白熱した試合展開が行われ、三位という結果を収めました。悔しさの余韻に浸ることなく次の日から、日本リーグ所属のルネス主催の高校研修大会に参加しました。ハードスケジュールの中、対戦校は名立たる強豪校ばかりで苦戦を強いられました。

その後も、練習試合を幾度も重ね、総体に向けて一心不乱に練習に励みました。

昨年は、総体で初戦敗退とかなり悔しい思いをしました。その結果を受けて、例年よりも二ヶ月早い新チーム体制作りでしたので、細かい技術的な指導をコツコツと続けてきました。新入生も入部し、上級生も刺激を受けながら昨年の雪辱を晴らすため、チーム一丸となって練習に臨んで大会本番に向けて練習に取り組みました。

そして、六月三日土曜日に決戦の火蓋が切って落とされました。対戦相手は、新チームとなって何回も練習試合を行ってきた、市立和歌山高等学校です。市立和歌山高校は、攻撃力もさることながら守備力も兼ね備える手強いチームです。一回表からスリーバントスクイズなどで先制点を獲られました。しかしその裏、キヤプテンである小守のソロホームランで同点に追いつきました。一回裏、熊野が一点勝ち越すことができました。



た。しかしその後、シーズンゲームが続き、五回表に三点獲られ、裏に二点返しましたが七回裏、サヨナラのチャンスを活かせず敗北となつてしまいました。ゲーム中も、チャンスはいくつかあったのですが、普段の力を発揮できずに終わってしまいました。

この敗北で二年連続、初戦敗退。しかも近畿大会及び三県対抗大会、新人戦のシード権も逃す手痛いものとなりました。これで三年生は引退となってしまい、その悔しさは生徒、顧問ともども計り知れないものとなりました。勝負とは、最後まで何が起こるかわかりません。

大昔は天運で勝敗が決まると考えられていましたが、本当の勝負とは本番までひたむきに努力した者がこそ勝利を得られます。その事実を真摯に受け止め、チーム全体で課題に取り組み、新チームとして新たな一歩を踏み出したいと考えています。

今日まで、熊野高校ソフトボール部を支えてくださった方々、

保護者の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、熊野高校及び、ソフトボール部を応援して頂ければ幸いです。



市立和歌山	1	0	1	0	3	0	0	5
熊野	1	1	0	0	2	0	0	4

(本)小守 (二)小守